

活動レポート

リージョナルステート研究会

臨時総会の講演会

6 月 29 日に北海道経済センター大会議室にて、リージョナルステート研究会 (RS 研) の臨時総会を開催しました。議題は会則と活動計画等についてでしたが、総会終了後に企画した講演会には会員のみなならず一般参加の方々にもご来場いただき、出席者数は 60 余名にも上る盛会なものとなりました。

ここでは講演会の内容についてご紹介いたします。



講演会の講師は、本研究会設立メンバーであり、これまで研究会の会長としてご尽力いただいた市村一志氏と、道産ロケットの打ち上げで昨今注目を浴びている株式会社カムイスペースワークス (赤平市) の植松努氏をお願いいたしました。

市村前会長には「リージョナルステート研究会を振り返って」という演題でご講演していただきました。講演の概要を以下に記します。

- ・バブルが崩壊し、北海道の社会、経済が疲弊し始めていた平成 10 年 7 月、「北海道飛躍のシナリオ」(大橋猛著)をきっかけに地域の自律と活性化を進めていくうえで、技術士として貢献できるものはないのかという問題意識を持った 11 名の技術士でスタートした会であったこと。
- ・設立当初は沈み行く北海道を救おうという思いを

込めてタイタニック研究会としたが、平成 11 年 8 月 19 日にリージョナルステート研究会として、コンサルタンツ北海道 88 号で会員を募集したこと。

- ・自律と活性化のための提言と実行を目的とし、そのためには①経済の自律、②地域特性の主張、③地方主権、④国際貢献に焦点をあてた分科会活動を中心に展開を図っていくこと。

最後に会への提言として、「どんな小さいことでも、やりたいこと、やれることから提案し実行すること。そして、技術とは何か、技術者とは何かを問い続けてほしい。」と締めくくられました。



植松氏には「北海道発、宇宙へ——独自の技術開発力で世界に向けた事業展開——」という演題でご講演していただきました。講演内容は驚くような話ばかりでした。

- ・「ロケットを作りたい。」と想いを抱いていた人間が、周囲の「ロケットなんか出来るわけがない。」という失笑をも乗り越えて、北海道発の人工衛星を打ち上げたこと。
- ・そして、その人工衛星は現在も地球の周りを一周 90 分の速度で回っていること。
- ・無重力実験施設があるのは世界にたった 3 個所で、ひとつは岐阜、もうひとつはドイツ、三つめは赤平のカムイスペースワークスであること。
- ・実験費用は岐阜が 90 万円、ドイツが 120 万円であ

るが、カムイスペースワークスは0円にしていること。

講演の終盤では、植松氏自身の技術に対するポリシーが一気に語られました。「技術の基本は論理的な思考ができることであり、それは大切なことである。」「仕様書に不満があれば、自己責任で仕様書を変えろ。」「やったことがなければ、やればよい。知らなければ、知ればよい。」……云々。どの言葉も共鳴でき、しかも感動すら覚えるものでした。



お二方の講話を聞き終えて感じたことは、技術の礎となるものは何かということであり、これが共通のテーマだったように思います。

寿都町での模型ロケット実験

自然科学教育分科会は8月3日と4日の両日、寿都町に教育サポートに繰り出しました。これは、寿都町教育委員会が地元の小中学生を対象に開催しているサバイバルキャンプにおいて、当分科会が出前授業を実施している恒例の行事です。この出前授業の初日には、臨時総会で講演していただいた植松氏

に模型ロケットの製作指導と打ち上げ実験をお願いしました。

当日は朝から雨降りでしたが、旧湯別小学校の体育館で1時間半かけて作った模型ロケットが完成したころには、先ほどまでの雨が嘘のように止み、太陽も顔を出して打ち上げには絶好の天気となりました。子どもたちは自分で作ったロケットを手に総合グラウンドへと移動しました。



植松氏が打ち上げ装置のセッティングをして、一人ずつ発射スイッチを持たされての打ち上げとなりました。カウントダウンのあと、一気に上空100mまで飛ぶロケットに思わず歓声があがりました（グラビア）。

「まさか、こんなに飛ぶとは……」これには我々大人たちも驚きの色を隠せませんでした。パラシュートが開かなかったり、空中で分解したりしたものもありましたが、全てのロケットは空高く飛び上がり回収もできたので、実験は大成功に終わりました。

ここでも、植松氏は子どもたちに励ましのエールを送ってくれました。「今日から、『そんなのムリ』とか、『こんなことできる訳がない』という言葉は一切使わないでください。それを言わないだけで立派な大人になれます。」翌日は、植松氏にとって大樹町で本物のロケット打ち上げという大変な日でした。成功の知らせはニュースで報じられたので、ご存知の方も多いと思います。それにも関わらず、子どもたちの体験学習に駆けつけていただいた植松氏にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

（文責：リージョナルステート研究会副代表 対馬 一男）